

平成 30 年度 第 2 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

2nd Activity Report, April 2018: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 30 年 4 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) PM 人材育成研究会

(主査：黒木弘司)

PM 人材育成研究会では、ステークホルダーについての議論を継続して行っています。本年はプロジェクトを成功させるために、ステークホルダーに好ましい態度や行動をとってもらうにはどのように働きかければ良いのか、それを考えるためには、まず「人は何に基づいて行動するのか」を理解することが必要であると考え、「人間の行動原理」をテーマとして議論を行っています。

3 月度 (2018/3/8) は、検討を開始するにあたってアプローチ方法について議論を行いました。議論では、主に「人」を中心に考えて網羅的に影響を与える要因を洗い出してから検討の対象を絞り込んで行く方法とプロジェクトマネジメントにおける「人間の行動原理」であることから、ステークホルダーが所属する「組織」や「プロジェクト」の影響から検討を始める方法の 2 つについて検討が行われました。しかし、今回の議論では結論が出なかったため、4 月度の研究会で引き続き検討することとなりました。

4 月度は、引き続き研究のアプローチ方法について検討を行う予定です。

<今後の活動予定>

- 4 月 12 日：アプローチ方法の検討
- 5 月 10 日：対象に合わせて研究
- 6 月 14 日：対象に合わせて研究
- 7 月 12 日：対象に合わせて研究
- 8 月 9 日：対象に合わせて研究

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(2) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動中です。



定例会の様子 (3 月 20 日)

<直近の活動実績>

2 月 21 日：定例会開催

「心の健康問題を考える予防する進化生物学的視点」(前田英行)

以下の 2 つのテーマをもとに議論しました。

- ・科学法則は大数の法則。対象数が大きいと再現確率は高くなる。一方、特定個人に法則が当てはまらないことも確率問題である。
- ・ある環境条件下で「たまたま、種の生き延びる確率」が高い機能・性質を持った集団が、世代を経てシェアが圧倒的に高くなる。

3 月 20 日：定例会開催

「Tal Ben Shahar の幸福のモデル」(杉内陽)

ハンバーガーを「美味しいと不味い」「健康的と不健康」の 2 軸で分けた 4 象限モデルをもとに、幸せになる方法について議論しました。

- ・快樂主義 (Hedonism) ラットレース (Rat Race) ニヒリズム (Nihilism) 幸福 (Happiness)

「心の病をかからないために実践する 10 の行動」(柴田浩太郎)

行動シーン、工夫、効果などを議論しました。

- ・〆切は日にちだけでなく時間を指定する
- ・集中する時間を作り、認めさせる
- ・電子的ゴミも普通ゴミと同じ。毎日捨てる

<今後の活動予定>

5月16日：定例会開催予定

6月20日：定例会開催予定

7月18日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(3) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会
(主査：中村 太一 国立情報学研究所)

現在は、暫定的に隔月の例会開催になっており、第46回の例会が3月15日に開催されました。まずPM学会春季大会で発表した「リーダーを目指す女性に必要なコンピテンシー」の共有が永谷副査よりありました。ポートフォリオやプログラム・マネジャーのような上位レベルのPMには、プロジェクト・マネジャーとは異なったコンピテンシーが求められます。特にコンセプチュアル・スキルが重要であるとの発表の趣旨について、例えば、日本人はコンセプチュアルなアプローチが苦手であるなど、様々な観点からのディスカッションが為されました。その後、当研究会の今年度の研究テーマであるアジャイル開発について、アジャイルの実務者をゲストにお招きして、アジャイル開発の経験談を伺いました。アジャイル開発では、作り手と使い手の一体感がなによりも大事なことで、そのためには、プロセスや技法の上に互いをレスペクトして良い人間関係を構築することが欠かせない、などゲストの日本におけるアジャイル開発の課題も盛り込んだ貴重な体験談を受けて、メンバーとの意見交換が活発になされました。

<今後の活動予定>

5月17日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(4) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会
(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャルPMの体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICTプロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

<直近の活動実績>

1月26日：定例会開催

<今後の活動予定>

4月中旬：定例会開催予定

6月中旬：定例会開催予定

8月中旬：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 yamamotot@nttdata.co.jp (山本)

(5) リスク・マネジメント研究会
(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行なっています。2018年は、

・リスク・マネジメント教育

・テキスト分析を用いたリスクモデル

をテーマとして活動を行っています。現在、企業の初級PMの方を対象としたリスク・マネジメントの研修教育を計画しており、内容を検討しています。

<今後の活動予定>

4月11日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(6) 人工知能 (AI) と統計モデル研究会
(主査：梶山 昌之 ワイハット)

当研究会は「プロジェクトのデータ解析と見取り研究会」の研究活動を引き継ぎ、人工知能 (AI) と統計モデルをプロジェクトで活用するための研究を行います。現時点の学習・研究テーマとしては以下の6つになります。

① 人工知能 (AI) と機械学習

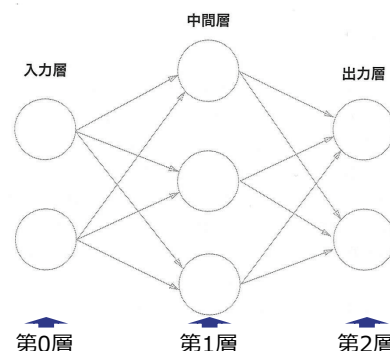
② Python の学習と活用

③ 統計モデルによる分析と予測

④ R 言語の学習と活用

⑤ ソフトウェアメトリクス統計分析

3月12日の会合では24名のメンバーが参加し、AIの基礎を学習しました。図は最も簡単な多層ニューラルネットワークを表しています。多層になれば非線形な領域を表せることを学習しました。



<直近の活動実績>

- 2月14日：定例会開催
- 3月9日：論文発表（PM学会春季大会）
- 3月12日：定例会開催

<今後の活動予定>

- 4月19日：定例会開催予定
- 5月15日：定例会開催予定
- 5月20日：AIの初心者向け会合開催予定
- 6月12日：定例会開催予定

会合は1回／月（原則として第2火曜日18:30~20:30）開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。

当研究会では過去の学習コンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】 kaiiyama@yhat.co.jp

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会 （主査：梶山 昌之 ワイハット）

当研究会の学習・研究テーマとしては以下の6つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析
- ⑤ 人工知能と機械学習
- ⑥ Pythonの学習と活用

上記のトピックは2月に設立された「人工知能(AI)と統計モデル研究会」に引き継がれましたので本研究会としての活動はありません。

(8) プロジェクト計画におけるQFD応用研究会 （主査：横山 真一郎 東京都市大学）

2004年より長きに渡り活動を続けて参りました本研究会ですが、本年3月をもって無事活動の幕を閉じることができました。14年前に1年間のプロジェクト型研究会として活動を開始して以来、PM学会員の皆様からのご助言、研究会メンバーのとどまることを知らない探究心に支えられ、QFD（Quality Function Deployment：品質機能展開）を核としてプロジェクトマネジメントの各領域にま

で議論を進めることができました。

研究会の初期の段階では、顧客あるいは依頼先の要望を如何に誤解せず、さらに漏れなく設計と計画に反映するかについて議論しました。そのために新しいQFDのフレームなどを開発しました。さらに、要求品質の本来意味するものは何か、それを理解するためにステークホルダーをどのように整理したら良いのかなどについても議論しました。最近では、QFD手法を基礎として、プロジェクトの進捗管理のための情報の定量化やリスク分析などへの展開に取り組んできました。

これらの議論の結果は、研究会フォーラム、学会誌での研究会報告、国内外での学会発表、論文誌として報告し、広く参照可能となっております。改めてこれまで活動を支えてくださった多くの皆様にお礼を申し上げますとともに、研究会としては幕を閉じますが、これまでの活動の成果が皆様のプロジェクトの質向上に貢献することを祈願しております。

2. 春季研究発表大会 研究会セッション

2018年度春季研究発表大会において研究会セッションを開催しました。セッションでは、研究委員会による「プロジェクトマネジメント学会における研究活動」、新設された人工知能(AI)と統計モデル研究会の梶山氏による「人工知能(AI)によるアプローチと従来型統計モデルの予測精度の差に関する統計的検証」、メンタルヘルス研究会の野尻氏による「『メンタルヘルス研究会2017年度ワークショップ in 岡山』成果発表」の3件の発表が行われ、質疑も活発に行われました。また、研究会活動のニーズに関するアンケート調査を今回も行いました。新研究会テーマ案に関する調査結果からは、「アジャイル開発におけるPM」「異業種のPMに学ぶ」「PMOが持つべき機能」「サービスビジネスにおけるPM」のニーズが高いことが分かりました。これらの結果を踏まえながら、引き続き、新たな研究会の立上げを検討していきます。

3. その他

活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会 委員長	岡田 公治
研究委員会 副委員長	井沢 澄雄
研究委員会 担当幹事	高田 淳司